

愛知県知事殿

犬山市長 原 欣伸

検証実施報告書

令和6年8月21日付け第471-4号で事業を決定された後、貸与されたテントを用いて検証を実施しましたので、令和6年度ペット同行避難対策事業実施要領第9の規定に基づき、下記のとおり提出します。

記

実施日	令和7年1月20日(月)
実施場所	犬山市体育館(エナジーサポートアリーナ)
内容	<p>1 参加者 市職員、犬山市民、犬山動物総合医療センター、ミズノスポーツサービス株式会社、あいち防災リーダー会犬山、NPO にこっと</p> <p>2 検証方法 訓練に参加している市民の方と関係者でテントの組立をし、組立後、参加者の市民の方が連れてきたペット(猫)と一緒に入ってもらう。</p> <p>3 検証項目(利点、評価点、苦慮した点などを記載してください。) (1)温度、明るさ、臭気、騒音</p> <ul style="list-style-type: none">・温度 上着を着た状態でテント内に入ったが、脱げば適温。 猫と一緒に入っていたが、特段変化は見られなかったため、問題はなかった。 冬場の室温 20℃の状態ですでに入りましたが、周囲に人が大勢いることもあり室温が22℃に上がったが、動物の体温調整をする行動は見られなかったため、問題ない。・明るさ 飼育作業や、日常的に行う作業に支障がなかったため、問題なし・臭気 人によって差があるが、一部の見学者から臭いが気になる(訓練

を通して)との意見があった。短時間の訓練ではあったが、短時間でも気になる人がいることを考慮し空気清浄機を置くなどの対策を考える必要がある。

・騒音

テント内での生活音は閉め切っている状態では、音漏れ等は無かった。テント内で、ペットが吠えたりすることがなかったため、吠えた場合の騒音の度合いは確認できていない。

(2)逸走の可能性

・テントの仕様上、組立の段階でテント下部のマジックテープをつける位置を間違えると隙間から猫だと逃げ出す可能性がある。しかし、間仕切りなどとは違い、テント自体が重たいため、動物が動いた衝撃で逃げ出すことはないと感じた。

(3)仕様の過不足

・テントの色は今回赤だったが、もう少し淡い色合いにするほうが、人も動物にもストレスがないのではないかと思う。
・テントの生地はポリエステルのような破れにくい素材だったため、動物が引っ掻いたり、強い衝撃があったとしても問題ないかと思われる。
・説明書等が無いため、組み立てに苦慮したため、各接合部位に付番や印をつけるなどの工夫があるとよい。
・重量があるので数名で組み立てが必要だが、組立工程はいたってシンプルのため組み立てやすい。しかしマジックテープだと何かの衝撃で外れたり、組立の段階で隙間ができたりという可能性があるため、逃げ出す可能性のある天井との接合箇所以外のところはファスナーにするとよいと感じた。

(4)付属が望ましい仕様

・テントが付属の袋に入りきらない構造のため、持ち運びがしにくいため、テントが全て収まる袋のほうが良い。
・より大きな窓
・密閉できる窓構造

	<p>(5)設置場所</p> <p>基本的に犬山市の運用上、屋内でしか使うことがないため、特別このような場所にといいことはなない。</p> <p>もし、屋外で使うならば、テントの生地が分厚く、通気性が低いことから、日陰で風通しの良い場所に設置するのが好ましい。</p> <p>4 総評(効果的であるか、問題点は何か、それら対する改善案など)</p> <p>本テントを活用することで、プライバシーの保護や防音に対しても一定の効果があると考えられた。ただし、設置する場所や活用方法により、テントに要求される性能が異なることから、テントにどのような役割を持たせるのかを検討したうえで、適切な場所に設営することが重要であると思われた。</p> <p>また、訓練当日に使用した犬山市の間仕切りは屋根がないものが大半だったが、今回のテントは屋根もあり、入口を完全に閉められるということから、ほかの動物を見ると吠えてしまう動物を中心に入ってもらい、別の部屋、別の導線で食事や排せつができるようにする運用が効果的であると感じた。</p> <p>なお、今後は、避難所を利用する地域住民への啓発や情報提供が不可欠である。このため、市として HP や協定先である犬山動物総合医療センターとのイベントなどを通じて、積極的に発信していくことが必要であると考えられた。</p>
--	--

※ 検証の様子が分かる写真を添付すること。

※ 関係機関との協議書、改訂した避難所運営マニュアルなど、事業により作成された成果物を添付すること。



【 訓練本部 】

- ・間仕切りが大きいので、収容個体数が限られる
- ・テントはどれぐらいの数が設置できるのか、概算がわかるとよい
- ・今回は犬、猫のみであったが、他の種類のパターンの想定が必要と感じた
- ・ペットの種類（犬、猫など）毎に頭数が分かれば、物資配布担当が何が必要か把握しやすい
- ・指示役と組立役の割振りが必要
- ・宿泊体験の希望があった
- ・受付で、エナジーか医療センターか、避難場所を決める
- ・コット設営の際、グローブがあった方がいい
- ・テントの組立てに戸惑い時間がかかる。マニュアルがあるとよい
- ・ブルーシートは、事前にある程度敷いてあるとよい
- ・記入用紙に、重複項目が多々ある
- ・災害時、人員が足りない
- ・災害時は、施設利用者と、避難者の両方の対応が必要

【 避難所担当 】

- ・避難所担当職員として初めての参加であったが、動きの確認ができ、とても有意義だった
- ・今回は、避難所担当、施設管理者、避難者という協力者が多数いたため、受付、設営、片付けと割とスムーズに行うことが出来たが、災害時は人員が少なくなるため、綿密に協力することが必要
- ・受付から閉鎖まで、避難者、施設管理者、運営補助、担当で協力し合い、スムーズに訓練を完了できた
- ・災害時には、担当5名+ α での避難所運営になるため、避難者の積極的な協力が不可欠と感じた
- ・設営に関して、訓練では多くの職員が対応できるが、実際は数人での対応のため、もう少し職員が多くてよいのではと感じる
- ・ペットのネームプレートの掲示の方法
- ・ケージを持っていない人が避難した場合、設営に協力してもらいにくい。事前にゲージの用意が必要
- ・書類の記入漏れ、ミス等が散見された。スムーズな誘導も重要であるが、正確な情報を把握することも重要
- ・避難者用の記入用紙が2枚あるが、重なる項目が多く、その分記載時間が多くなると感じた
- ・災害時、どのぐらいの避難者が避難してくるか未知だが、分かれて記載するなどの対策が必要だと感じた
- ・ペットが来てからブルーシート等を設置していたが、その間、避難者がペットを玄関や入口に置いたままでの設営をすることになり、ある程度は設営した状態で受入した方がよいと思う
- ・テント等の組立てが分からず、戸惑った

【 施設管理 】

- ・テントや椅子の設営にとまどった
- ・多くの避難者が来た場合、対応できるか不安
- ・施設管理者として、利用者の安全を確認しつつ、避難者の受け入れが可能なのか、課題を感じた
- ・スタッフ同士の情報（現状）共有がもう少し必要

- ・簡易なテントについて、設置のスピードが速かったため、設置と誘導を同時に進めることが出来た
- ・設置している間も、声掛けをすることで不安解消になるので、そういった避難者への対応がもう少し必要
- ・災害時、すべてが同時進行になり、本部側も避難者側も混乱すると思うので、今回のような合同訓練は、大事だと思う

【 避難所運営補助 】

- ・自身に猫アレルギーがあり、訓練中猫のそばにはいなかったが、アレルギーがでてしまった。ペット避難所の必要性を改めて感じた
- ・組み立てに時間がかかる。組み立てを指示する責任者を明確にした方がよい
- ・テント組み立てなどの事前訓練をしたらどうか
- ・猫用テントの設営を補助したが、上下左右裏表も分からず、手間取った。訓練の必要性を感じた
- ・前回と比べ、吠える子が多く、いろいろなケースを想定、想像できた
- ・テントは思ったより広かった
- ・各避難所に備品がどれだけあるのか、把握したい
- ・宿泊体験もしてほしい
- ・収容個数が限られた
- ・ブルーシート準備早めに
- ・手順確認必要
- ・役割分担、指示者不足
- ・記入用紙、項目重複
- ・受付からの情報なし
- ・備品、テント数の調整
- ・人の多さ
- ・新しい備品の扱いが大変
- ・避難所職員担当は実際は3人
- ・利用者との兼ね合い
- ・3度目 受付、テントは早かった
- ・動物のジャッジ受付で
- ・避難者の協力が必要
- ・テント設営にグローブ
- ・ゲージに入れると重い
- ・雨天時、キャリーや荷物をもつと傘は持てない。カッパも必要かも
- ・前回に比べ、受付、設置などスムーズだと感じた
- ・ペット2匹を想定。医療センターまでの移動は、晴天だったため楽にできたが、雨の場合はレインコートの用意も必要
- ・受入頭数に限りあり。受け入れしてもらえない場合など、いろいろなシーンを想定しておくことが大事
- ・「場」があるか知っているだけで安心
- ・ペットOKの避難所があるという大きな安心感は、何物にもかえがたい

【 避難者 】

- ・ 2回目の参加。前回のテントより少し小さめだったが、猫にとっては広すぎずよかった
- ・ 訓練では、協力してくれる方がたくさんいたためテントの設営ができたが、マニュアルがあるとよい
- ・ テントのマジックテープがしっかりついていないと隙間ができ、猫が脱走してしまう心配を感じた。マジックテープの注意事項があるとよい
- ・ 貴重な体験ができた
- ・ 個のスペースがあることは視界がさえぎられ、とても安心できる。しかし、災害時には、避難者が多数いることを想定すると、このスペースを使うことができるのか心配
- ・ コットの設置がかなり難しかった
- ・ テントやコットの設置が、とても苦勞した
- ・ 災害時はペットを家に残しての避難も考えてはいたが、今回参加して勉強できた
- ・ 動物病院内も、見学出来てよかった
- ・ 避難時持出品も、ちゃんと考えたい
- ・ ペットと避難できるのはうれしい。今回の訓練で気づいた事も多くあり、参加してよかった。しかし、犬の気持ちを考えると、不安が多く、実際には難しいかなと感じる
- ・ わが家は実際は3匹の犬がおり、今回は1匹だけの参加であったが、全員を連れて動くのは厳しい。犬も家族なので、自分の命を守りつつ、ペットの命も守らなくてはいけない。今回体験して、もう少し災害について考えなくてはいけないと思った
- ・ 貸出用の犬用ケージは、力の強い子の場合、動いてしまうと思う
- ・ 災害時は、テントの設置を手伝ってくれる人はいないので、どうなるか心配
- ・ 次回は違う子で訓練に参加したいと思う
- ・ 市の職員さんが、もう少し仕切ってもらえるとありがたい
- ・ 日頃見ることが出来ない動物病院の受入状況がわかり安心した。わが家は小型犬のため、できれば同室が希望
- ・ コットの組立てに、かなりの力が必要。男性でないと厳しい
- ・ 家からの持出品がわからない
- ・ 災害時、どのように行動すればよいか学べた。普段見られないところも見学でき、とてもよかった
- ・ 皆で協力することが必要
- ・ 災害時パニックにならず行動しようと思った
- ・ 早い人からということに少し不安を感じた
- ・ 思っていたより、設備、環境がよく、安心できた
- ・ ペット別に受付と流れが分かるようにしてもらおうとよい
- ・ テントの組立ては難しい
- ・ コットの組立てがわかりづらい。横の棒がつけにくい
- ・ ゲージからペットを出せることがよい

【 犬山動物総合医療センター 】

- ・ テント設営、受付もスムーズだった
- ・ テント内に猫がいることが、外から見えてよかった

- ・テントを立てるまで、キャリーから動物を出さない
- ・緊張でパンティングが激しい子がいた
- ・夏の対策が必要
- ・オーナーと離れると、パニックや吠えが悪化する子もいるため、ケアセンターへ連れていく子を判断することが難しい
- ・逃走対策
- ・猫は、ネットに入れるか、首輪やハーネスを付けたほうが良い
- ・フリーで来た犬のけんかや排尿

【 見学者 】

- ・避難所の設営や流れ（受付～撤収まで）が見られてよかった
- ・テントやサークルなどすき間があるので、ペットが出てしまう可能性があるのではないかと
- ・コットにペットが乗っていいかという質問があった。事前に簡易マニュアルなど作成し、細かいルールを決めておいたほうがよい。ゴミや汚物のルール決めも
- ・市民が被災者になるということは、市職員も被災者ということになる。人員が限られる中での運営は大変になると予想できる。市民の方々の自助力が上がるような訓練や教育があるといい
- ・ペット同行避難所が通常の避難所と別に整備されているため、ペットを飼う住民だけでなく、動物へのアレルギーや苦手意識のある住民もそれぞれの属性にあわせた避難所を選択することができ、災害時の無理な在宅避難や車中泊も減らすことのできる取り組みだと感じた
- ・また、災害や避難でペットが負傷すること、避難生活で病気になることは想定外で、事前に隣接する動物病院と協定を結び、治療や一時預かりを可能としていることは、特に先進的な取り組みのように思われた
- ・しかし、災害時は人命優先という考え方もあり、ペット同行避難所を整備するメリットを「ペットを飼っていない住民」へどのように伝えるかが課題とも感じた
- ・訓練内容の説明があり、全体の流れや想定がわかりやすかった
- ・開設にあたり、無線で本部と連絡をとるなど、実践に即した内容となっていた
- ・本市も含め、一つだけあるペット用テントを今後どのように活用していくかが課題と感じた
- ・その場で意見交換会を行うのは良いと感じた
- ・獣医師による健康管理の連携体制が取れているのは良いと感じた
- ・本村においても、近年ペット同行（同室）避難について意見が議員等から上がるようになっており、喫緊の課題とし検討を進めているところである。今回の見学は、通常の災害時と受付方法が異なることから、受付時間の短縮が検討課題として発生することや、本村内に動物病院が無いことから遠方への派遣要請についての課題があることを感じた。また、見学として参加の自治体が多数あることから、全国的にも注目の集まる事項として、参考にしていきたい
- ・貴重な訓練を見学でき、大変参考になった。当村では動物病院が村内に無いため、他市町村との連携も考えた計画の立案が必要と認識した
- ・ペット同行者と非同行者の住み分けを考えるきっかけとなり、村内避難所においても「ペット同行可能避難所」の設定と、その中での人とペットの隔離された避難所生活や「ペット同室避難」の可能性の追求が必要と感じた
- ・受付時の混雑（そもそもペット同行避難者がいる前提の受付業務が必要か）の想像が難しいと感じた
- ・ペット避難は、人が避難する以上に準備するものが必要であり、気を遣う場面も多く見られたため、同室

避難を実施するにあたり、関係部署、施設管理者との連携がより重要だと感じた

- ・ペットの普段からのしつけが大切で、飼い主に周知していく必要性を感じた
- ・短時間であったが、臭いが気になった。施設管理者の理解を得られるよう事前に十分な説明が必要になる
- ・避難者が運営の主体ということだが、資機材の組立てが分からなかったり、飼い主と離れるとペットが鳴き始めてしまう様子が見られた。やはりある程度職員のサポートは必要だと感じた
- ・短時間でも臭いが気になったため、一定期間生活するには、対策が必要である
- ・ハード面だけではなく、ソフト面でも、様々な工夫や、実際に行ってみて修正されることなど、大変参考になった、当市の参考にしたい
- ・振り返りの時間も、活発な意見交換をされており、皆様の真剣に訓練に取り組んでいる姿に感服した
- ・テント等の各備品は、よく考えられていたものが多く参考になった
- ・長期避難の際には、人と同様にペットにおいても、トイレの問題が出てくる。特に猫に関しては、犬のように外で用を足し糞をとるというわけにはいかないなので、備品として検討していただきたい
- ・犬山動物総合医療センターは、近隣でもかなり大きな病院であり、その病院と災害協定を結び、行動訓練を行うこと自体、先進的で素晴らしい取り組みだと感じる
- ・今回の訓練では、犬猫のみの受入であったが、他の種類の受入対応も検討課題
- ・今回使用のテントでは、30 頭程度が受入可能数と思われる。市内の動物は、はるかに多いと考えられるので、受入頭数の検討が必要。想定以上避難者が来た場合の対応も検討事項
- ・犬と猫でテント（屋根付）が異なり、工夫されていた。犬はサークルに放す際、リードをくくりつけておくと、逃げ出し防止になるのでは
- ・備品がたくさん準備されていてよい
- ・近隣に動物病院やペットホテルがあり、とても整った環境だと感じた
- ・施設管理者との協力が必要なことなど、気付かされる点が多々あり、とても勉強になった
- ・想像より避難者が少なく、自治会の方や一般の参加者（ペットを飼っていない協力者）がいても良かったのではと感じた
- ・今回の訓練は、本市にとって全てにおいて参考とすべき内容であり、今後の指針となると思われる
- ・市長をはじめ、担当の皆様丁寧に対応していただき、心から感謝している
- ・すべてが為になる訓練であった。自身が昨年 10 月から配属され、何も分からない状態から勉強していたが、今回の訓練は気づきばかりであった。小木曾様からの回答も、お忙しい中対応していただき感謝している。今後の対応や準備等の参考にしたい
- ・訓練の進行、段取りがしっかりしていた
- ・犬と猫でテントを分けることにより、同じ部屋でもしっかり区別でき、猫に対しては屋根付きテントを準備するなど勉強になった
- ・訓練終了後のふりかえりについて、「終わったらすぐに帰りたい」と思っている人がいるかと思うと躊躇してしまうが、参加者皆でふりかえりを行っていたのがすごいと感じた
- ・初めてペット同室避難訓練を視察し、大変勉強になった。同室避難できることで、飼い主もペットも安心できる避難生活が送れると感じた
- ・動物病院との連携は、受入、傷の手当等に心強い
- ・テントやベッドの設営を避難者も一緒に体験したことはよかった。災害時にテントの組立て方を知っている人が多いほど、スピーディーに設営できる。担当者の人数も限られるため、避難者同士で設営できることは重要である
- ・動物病院との連携はうらやましい
- ・当市も 1/26 に訓練を控えているが、受入手順、スターターキットの違いなどが確認でき、よい機会となった
- ・市長、副市長も参加したイベントの実施は、職員、サポートする市民の励みになる
- ・一般の方参加の訓練で、動きを共有しながら訓練でき、住民にも安心感を与えられ、よいと思う
- ・避難スペースを入り口付近に設置したのは、何か理由があったのか。動線的には、長期避難になった際、

厳しくなるのではと感じた

- ・訓練会場の避難所は、一般の指定避難所もかねているか。今回のような受付は、ペットを連れたまま受付をされるケースも考えられる。アレルギー対策を考える場合、受付場所や方法をもう少し工夫する必要があると感じた

- ・訓練本部、受付、同室避難、備蓄品置場、見学場所のエリア分けが明確に表示され、避難者の動線が分かりやすく参考になった

- ・本市も今年度より市環境政策課と防災対策課が連携し、ペット同行避難の取組を始めたところで、犬山市の取組を参考にしていきたい

- ・今回は風水害想定で予めペット避難者も避難準備ができたと思うが、地震など突発的な時の備蓄品などの問題も対応が必要だと感じた

- ・スケジュール通りの進行は見事であった。参加者のベクトルが合致しつつあった点が要因だと思う

- ・避難者が、設営、片付、撤収を行う事で、より“自分事”になっていくと感じた

- ・市として、備蓄食料（エサ、水）は、どのような案配であるか知りたい

- ・在宅避難のペットに対する対応があれば、教えてほしい

- ・ふりかえりが重要だということを実感した

- ・犬山動物総合医療センターの偉大さに感謝したい

- ・訓練見学することで、イメージできた

- ・訓練に参加した犬は、吠えたりする犬が少なく、しつけがよくできているのを感じた

- ・今回は小型、中型犬が多く、大型犬の対応は、どのような違いがあるのかと思う

- ・資機材の使い方も勉強になった

- ・犬山市はペット避難の体制が、充実していると感じた

- ・同室避難する場合、臭い等の対策が気になる

- ・動物病院が近くにあることがとてもよく、避難者もとても安心できる環境

- ・当町も、犬山市を参考に、ペット同室避難に取り組んでいきたい

- ・避難所の受付は、アナログのみか。DXの取組は検討しているのか

- ・必要な避難所、備蓄品の準備、ペットの健康管理、受入体制の確立の難しさを実感した

- ・風水害と地震とで受入体制が変わると思うが、受入頭数と避難者数の変化に、どのように対応すればよいか

- ・避難所は犬と猫に対応すればよしとするのか

- ・災害時の受付の混乱をどのように解消すべきか

- ・施設的环境、ペット用資機材等、非常に参考になったが、当市で同じような整備をすることに、ハードルの高さを感じた

- ・災害時、訓練の想定以上にペット連れの避難者が来た場合や、地震がおき、事前に避難所の設営（受入準備も含めて）が困難な場合の対応が気になった。すべての避難者に同じ環境を提供できるのか

- ・見学者の誘導もしていただき、感謝している

- ・設営は、想定以上に時間を要することが、認識できた

- ・避難するペットの数が、体育館と医療センターの受入数を上回る場合の対応について、知りたい

- ・体育館では、パーテーション内でも、ゲージに入れることとなっているが、現実的には難しいのではと考える

- ・実際に居住するスペース、ペットの過ごす環境を、確認できてよかった

- ・この施設で同室避難するにあたっての、注意事項やルール、飼い主に準備してほしいことなどに関する、説明の時間があるとよかった

- ・実際にペットも参加する訓練であったが、大きな混乱など無くスムーズに設営や避難がされており、すばらしいと感じた

- ・テントの設営では、間仕切りやワンタッチ式のもの比較的簡単に設置や片付を行えているようだったが、県から支給されたものは、人数を必要とし、組立がやや難しそうであった

- ・訓練では、多数の職員が実施していたが、災害時は33の避難所があり、手慣れた職員を専従させるのは難しいと思われるため、市民等の協力者をどれだけ増やせるか、職員の到着できない場合、何ができるのか、

検討する必要がある。テント設営も不慣れな人は時間がかかるため、手慣れたリーダーが仕切るべきという意見も出たが、災害時はそういったリーダーも現場にいない場合もある。多少時間がかかっても、訓練に参加した方々が動けるような覚悟と想定をもって準備をする必要があると感じた

令和6年度 ペット同室避難 避難所開設訓練の概要

1. 訓練名 ペット同室避難 避難所開設訓練
1. 日時 令和7年 1月20日(月) 午後2時～午後4時
1. 場所 犬山市体育館(エナジーサポートアリーナ)
1. 訓練内容 令和4年12月1日より運用を開始したペット同室避難について、避難所の開設の流れを確認し、同室避難スペースの設営等の同室避難に関する一連の業務を実際にペット同伴で実施する。
また、被災動物の保護、管理及び一時的な預かりや、負傷した被災動物の診療施設への受入等の流れを確認する。

※避難者が運営の主体となるよう、避難者に避難スペースの設営に参加してもらう

災害想定：大雨警報(洪水)発表に伴う避難指示発令

1. スケジュール

	項目	内容	時間
1	概要説明	訓練方法、注意事項等を参加者へ説明	10分
2	訓練	<第1部 避難所開設訓練> 避難所開設 ⇒ 受付【1階ロビー】 ⇒ 避難(同室避難スペースの設営【1階多目的スタジオ】) ⇒ 避難 ⇒ 閉鎖 <第2部 犬山動物総合医療センター受入訓練> 受付(受入不可) ⇒ 犬山動物総合医療センターでの受入依頼 ⇒ (移動) ⇒ 犬山動物総合医療センターでの受入	70分
3	意見交換	振り返り、課題整理	30分

【問合せ先】 犬山市役所 市民部防災交通課(市役所3階) Tel.0568-44-0346
担当/小木曾、渡辺

<第1部 避難所開設訓練>

14:10	避難所開設	[避難所担当]	【市体育館担当職員】	
	開設報告	[避難所担当]⇒[本部班]	《無線》 ※14:30 に定時連絡するよう指示 [本部班]⇒[避難所担当]	MCA 無線
14:15	避難	[避難者]	順次受付へ	
	受付・誘導	[避難所担当]	避難受付、同室避難のルール周知 (一般避難者スペースの設営 ※今回は省略) ※ケージなし避難者対応	受付票、ネームプレート
	報告	[避難所担当]⇒[本部班] [避難所担当]⇒[施設管理]	本部班へ報告《無線》 施設管理者へ報告《口頭》	
	依頼	[本部班]⇒[医療センター]	犬山動物総合医療センターへスタッフの派遣依頼《無線》	
	報告	[本部班]⇒[避難所担当]	派遣の報告《無線》	
	スタッフ派遣	[医療センター]	派遣スタッフを調整し、市体育館へ派遣	
	設営	[避難所担当] [運営補助] [施設管理] [避難者]	同室避難スペースの設営 <1階「多目的スタジオ」> 資機材を備蓄品置場より運搬 【1】避難スペースをブルーシートで養生 【2】マット、間仕切り、テントの設置 【3】簡易ベッド組み立て	ブルーシート、マット、間仕切り、 テント、簡易ベット、トイレマット
		[医療センター]	到着後、ペットの状況（健康チェック、マナー等）を確認	チェックリスト
		[避難者]	設営完了後、避難者は各テントで避難	
14:30	定時連絡	[避難所担当]⇒[本部班]		
14:35	大雨警報 解除			
	避難所閉鎖連絡	[本部班]⇒[避難所担当]	《無線》	
	避難者へ周知	[避難所担当]	帰宅の意向確認	
	避難者 帰宅	[避難所担当] [避難者]	避難スペースの片付け後、順次退室	
	受付	[避難所担当]		受付票
	片付け、復旧	[避難所担当] [施設管理]	ブルーシート処理、消毒・消臭	消毒、消臭剤
14:55	閉鎖報告	[避難所担当]⇒[本部班]	片付け完了後、避難所の閉鎖を本部へ報告《無線》	

<第2部 犬山動物総合医療センター受入訓練>

15:00	受付	[避難所担当] [医療センター]	状況確認 ⇒ 受入れ不可と判断	
	受入調整	[医療センター]	医療センターでの受入調整	
15:05	移動	[医療センター] [避難者]	医療センターへ徒歩で移動（体育館北側の踏切を經由）	
15:15	受入	[医療センター]	医療センター内ケアセンターで受入れ	

受入れ確認後、市体育館へ移動

<避難所担当 役割・動き>

※リーダー※ 【市体育館避難所担当】佐野匠（設営担当）、小林大也（受付担当）

受付

訓練スタート時は全員受付対応

受付混雑時は、手分けして避難者の案内、誘導を行う

報告

リーダー（受付担当）が行う 【報告内容：避難者（世帯）数、ペット避難数、その他避難所の状況】

設営

受付終了後は、順次避難スペース設営へ移動し、避難者、運営補助者とともに設営

撤去

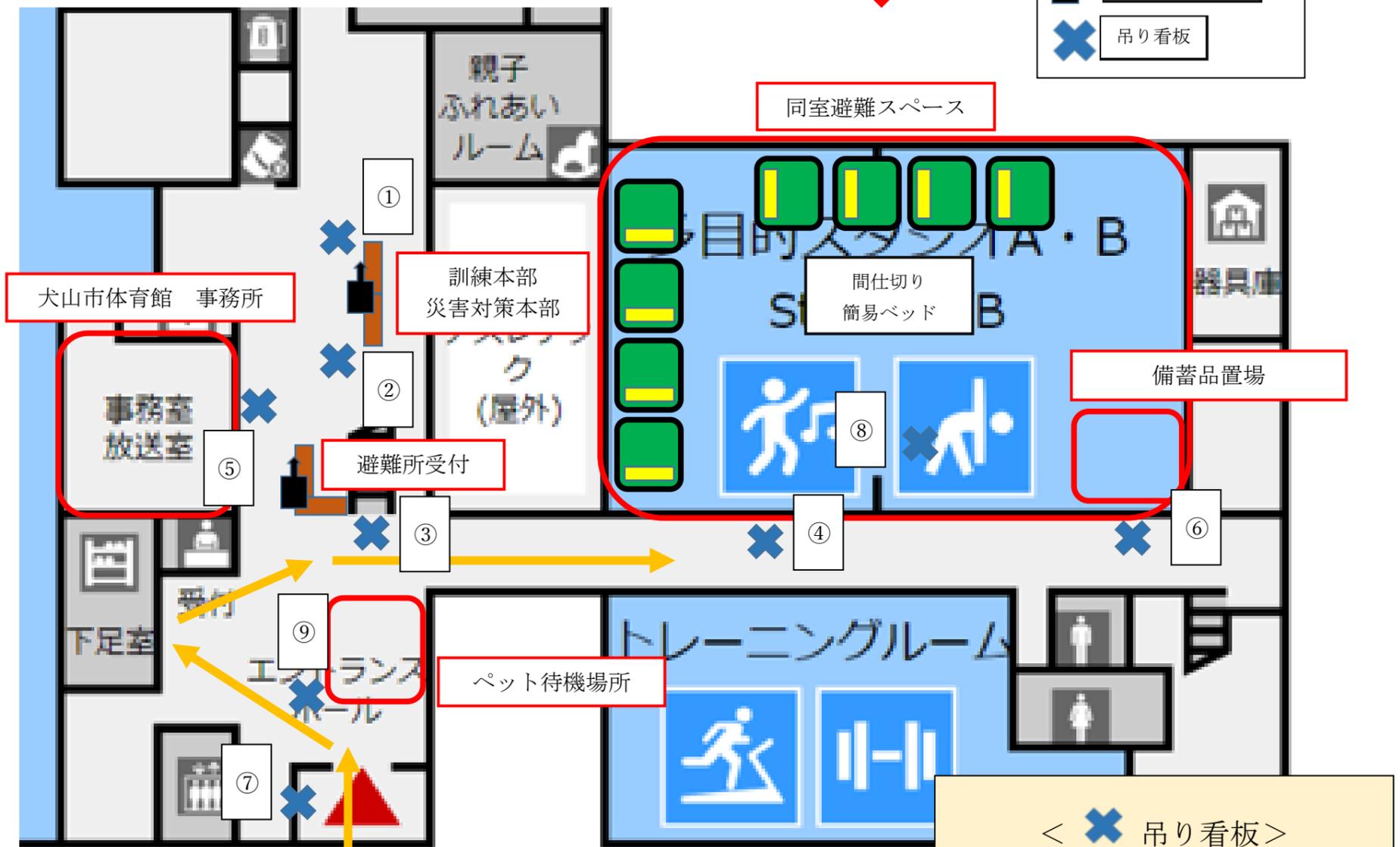
避難所資機材の片付け

<無線番号表>

300	災害対策本部
301	避難所受付
302	犬山動物総合医療センター
303	訓練本部
304	予備



1F



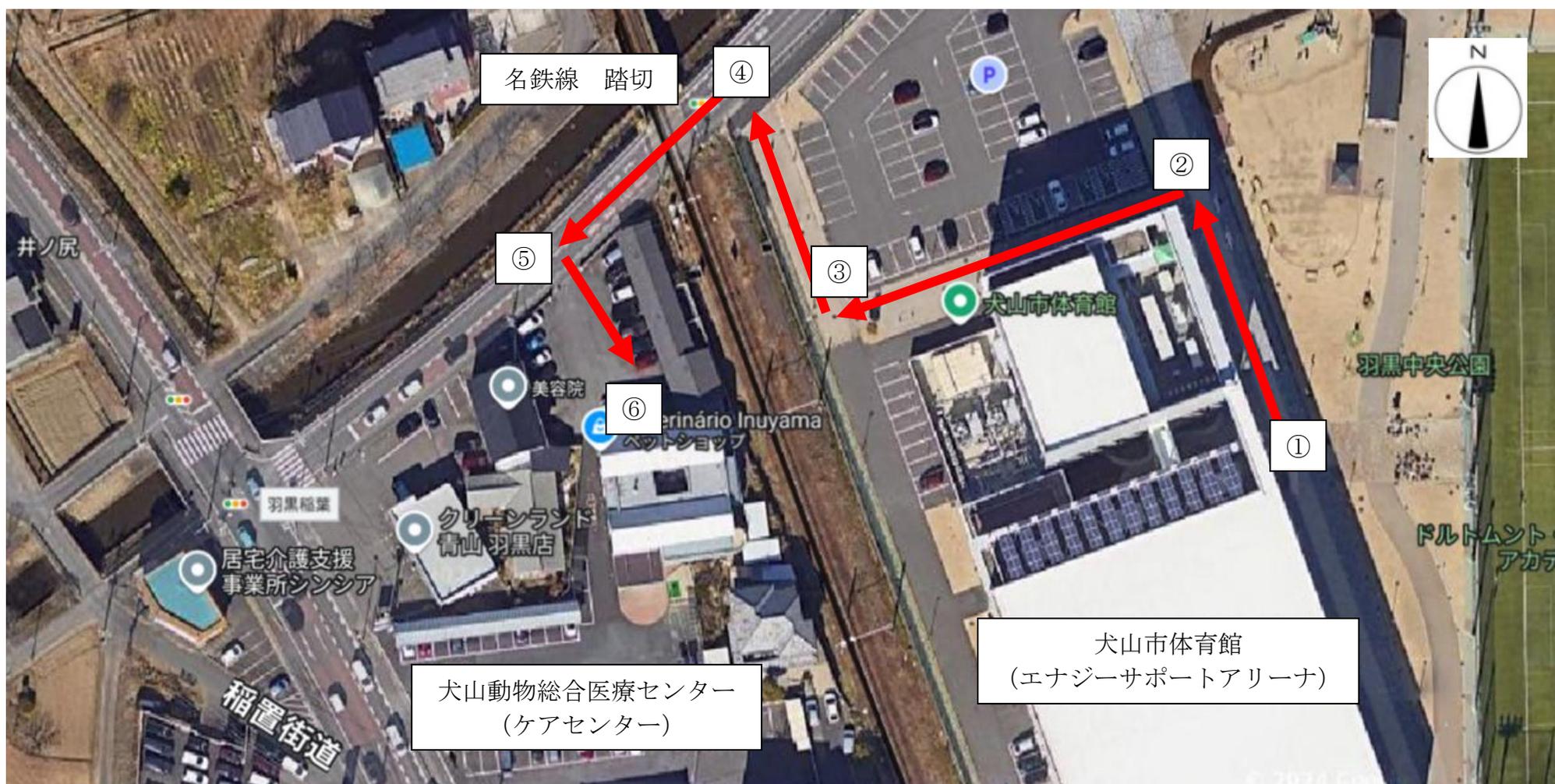
避難ルート

- < X 吊り看板 >
- ① 「訓練本部」
 - ② 「災害対策本部」
 - ③ 「避難所受付」
 - ④ 「同室避難スペース」
 - ⑤ 「犬山市体育館 事務所」
 - ⑥ 「備蓄品置場」
 - ⑦ 「ペット同室避難
避難所開設訓練 実施中」
 - ⑧ 「見学場所」
 - ⑨ 「ペット待機場所」

<第2部 犬山動物総合医療センター受入訓練>

〜〜 犬山市体育館から犬山動物総合医療センター（ケアセンター）への移動経路 〜

①体育館の玄関を出て左折（北進）⇒ ②建物に沿って左折（西進）⇒ ③線路沿いの歩道を北進⇒ ④左折し名鉄線の踏切を渡る⇒ ⑤10m先を左折（南進）犬山動物総合医療センター職員駐車場へ⇒ ⑥犬山動物総合医療センター（ケアセンター）入口

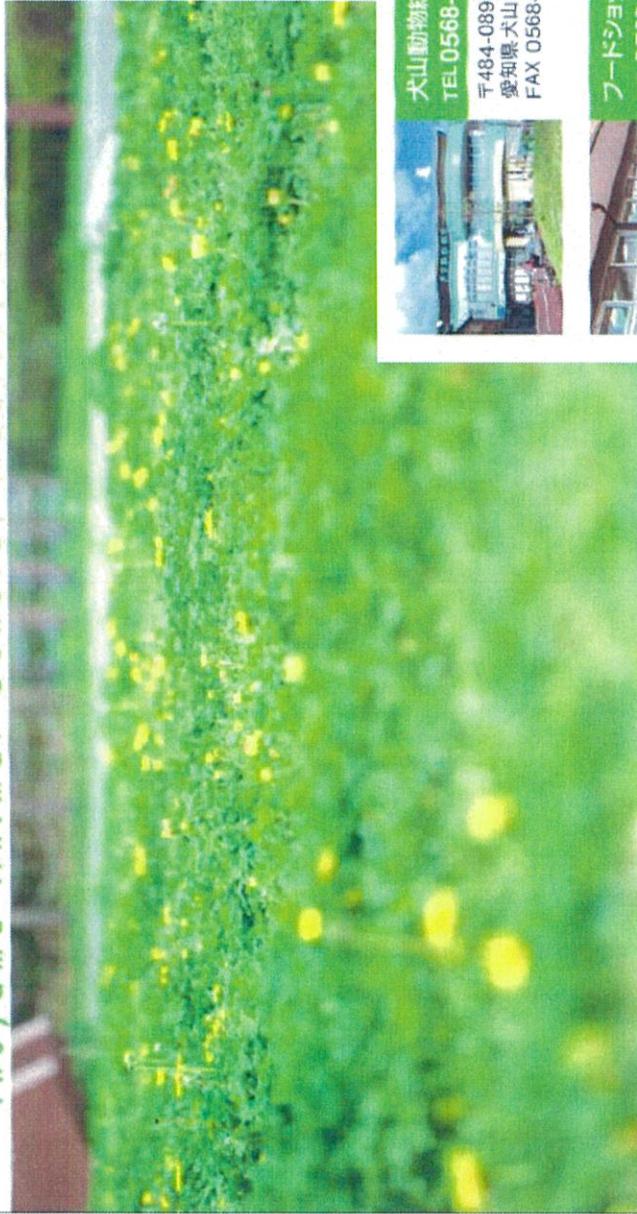


犬山動物総合医療センター
アニマルケアセンター



人と動物にやさしい 動物病院

Inuyama Animal General Medical Center



犬山動物総合医療センター
TEL 0568-67-1267

〒484-0894
愛知県犬山市羽黒大見下29
FAX 0568-67-8008



ファミリープラクティス犬山
TEL 0568-65-6500

〒484-0894
愛知県犬山市羽黒大見下29
FAX 0568-65-8008



フードショップ
TEL 0568-67-1267

〒484-0894
愛知県犬山市羽黒大見下29
FAX 0568-67-8008



アニマルケアセンター
TEL 0568-67-8058

〒484-0894
愛知県犬山市羽黒大見下18
FAX/0568-67-8008

動物たちと暮らす幸せを提供する



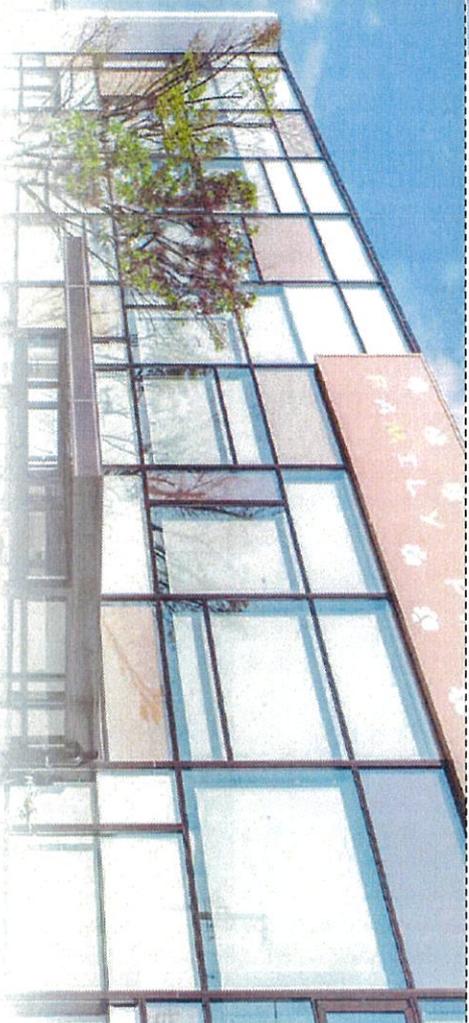
代表
太田 暎慈

動物病院業界の著しい変化とともに獣医療も目
進月歩の早さで進んでいます。その現状を解
しながら動物病院の原点は何かと回路する
もに、ホスピタリティーをコンセプトに出来
る事から始めています。また、医療だけでなく
様々な形で社会に貢献すべきだと考えており、
人と動物にやさしい動物病院を目指し日々精進
してまいります。



院長
大脇 将夫

「人と動物にやさしい動物病院」をコンセプト
にこの大山動物総合医療センターを、より一層
皆様にご信頼され愛される動物病院にしていき
たいと考えております。より満足いただけるよう
スタッフ一同が一丸となり、ますますの努力を
してまいりますので今後ともかわらぬご支援を
いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げま
す。



病院沿革

大山動物総合医療センターでは、開院以来人と動物に
やさしい動物病院を理念に、医療サービスを提供、予防
医療を中心としたファミリーケアケアと大山の開院に
より予防健康増進、啓蒙を目指す。

昭和44年12月	大山動物病院 開院
平成10年	アニマルケアセンター 開院
平成18年4月	大山動物病院 移転
平成19年7月	フードショップ 開店
平成23年12月	ばなみずき動物病院 開院
平成24年4月	大山動物総合医療センターへ改称
平成27年4月	ファミリーケアケアと大山 開院

病院概要

中部地区の基幹病院として求められる公的使命を積極的に果たす
べく、高度医療機関(CT・MRI等)を完備、各専門分野に特化した常
時10名以上の獣医師が先進医療を営めた検査や治療を提供、多数
の紹介症例実績を有する。

病診連携により二次診療を担う一方、地元地域の皆様にご紹介され
愛される動物病院であり続けられるよう、一次診療をはじめ予防獣
医学に基づいた予防医療の充実等を図るべく、獣医師の他、動物
看護員、受付・事務、トリマーがそれぞれの分野での役割を担
当しなから、より一層の医療サービス提供を目指している。

ペットの健康を保つ、ペットを病気から守る。

Team HOPEとは、全国の獣医師が中心となり、動物愛護の精神に基づき立ち上げた医療プロジェクトです。

ペットとその家族が、一日でも長く今の楽しい明日の笑顔を届けるよう「ペットの健康を保つ、ペットを病気から守る」
事を目的として、日頃の健康管理と病気の早期発見の重要性を発信していきます。

<https://www.teamhope.jp/>



診療科

外科

最先端医療機器を使用して手術時間短縮、負担軽減に注力。腫などの手術実績も多数。



①患者がスレーブカメラを駆使しての手術
アルゴリズムで画像処理、超音波
遠隔切開装置、顕微鏡、閉鎖型、気管
支鏡などの最先端医療機器を使用
手術時間の短縮や手術内の照明への
負担の軽減が目的



②手術前後の消毒も独自の手法
原料・器具・患者に合わせたマイクログ
消毒薬の活用、消毒薬の吸引装置(吸引機手術)
吸引装置(吸引機手術)
吸引装置(吸引機手術)
吸引装置(吸引機手術)



③他の動物の患者を診察
特に整形外科に注力し、
TPOやTPOなどの皮膚病
等の手術も多数

内科

高度医療機器での精査で、より効果的な治療に貢献。難治性疾患などは各専門医による診療も。



CT・MRIは診療・検査に活用
検査機器(CT)と共に用いることで、
この検査で高度医療機器での検査に
より、検査精度や負担軽減による
効果をより効果的にする事ができる。



リハビリに関しては、トレッドミルや
電気治療を行う。



また、皮膚疾患においては難治性の
疾患治療の対応を皮下専門医に診察
してもらえなどの対応も行っている。

エキゾチックアニマル



フェレット、ウサギ、小動物の専門医
ターナー・チンチラ・ブレイク・ドナルド・リス
モルキット、鳥類、異国産の犬、トイ・プードル、
ヘビ、両生類(カエル)の診療に力を入
れ、保護された野生動物についても診
察しております。

問題行動科



「なれぬ行動」も問題。手本博士の社会
化プログラムが、飼い主と動物の両方
にメリットをもたらします。本施設には問題
行動を未然に防止する環境もありません。
なれぬ行動は、動物の健康にも影響を
与えます。動物の健康にも影響を
与えます。動物の健康にも影響を
与えます。

ペットカウンセリング



ペットロスとは深刻な悩み。家族の死や別居が原因に
なり手放さなければならなくなった等、愛するペットとの別
れに悩まされている方も多く見られます。一人で悩んでい
ないで、専門家に相談してください。辛い思い、悔しい思い、
泣き止まない思い、後悔の思い、涙が止まらなくなるとい
うことで、悩まれている方も多く見られます。悩まれている
方も多く見られます。悩まれている方も多く見られます。

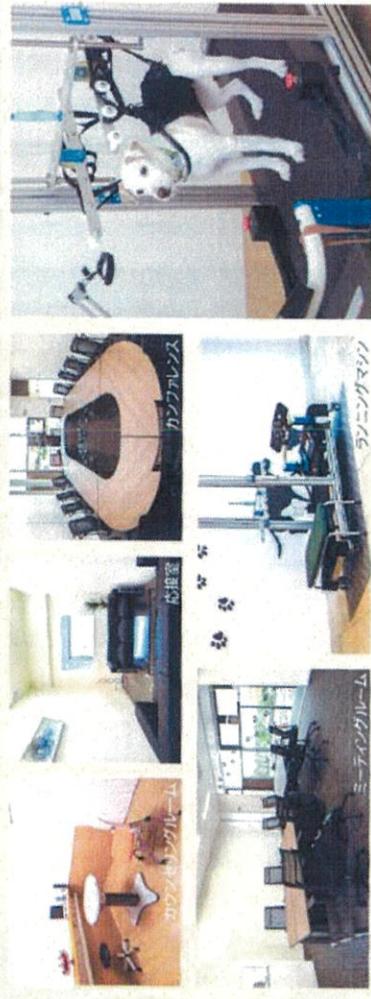


ファミリーブラクティス犬山

診療から予防へ。

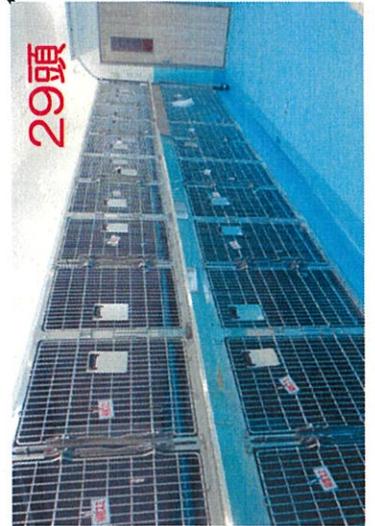
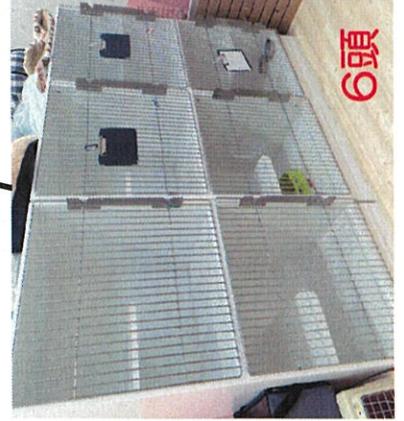
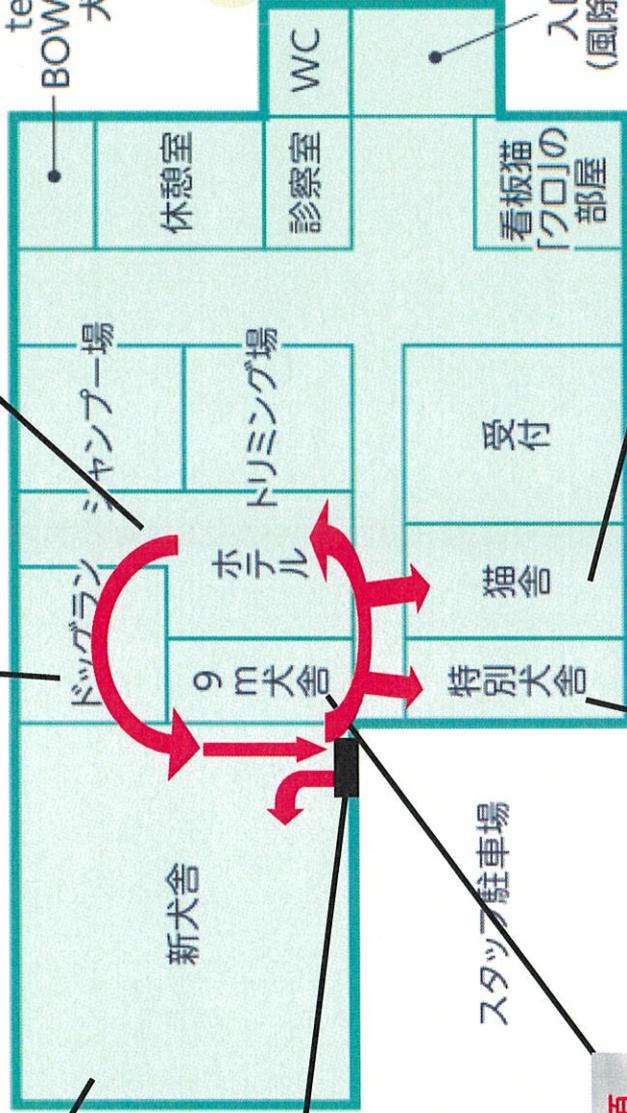
ペット自身では健康管理が出来ないため、健康であり続けるためには定期的な予防は欠かせません。
家族の一員として定期的な健康チェックや予防に慣れる環境を提供すべく、新たに開設致しました。

教室や催しを通じて“予防”を身近に、これらの情報を共有、啓発しながら、コミュニティ形成をも視野に、それがファミリーブラクティス犬山です。



アニマルケアセンター フロアマップ

team BOWWOW
犬舎



市内3か所の避難所で

ペットと同室で過ごせます！

市内の33か所の指定避難所のうち3か所をペットと同室で過ごせる避難所に位置づけ、避難時の室内へのペット受け入れを可能とします。(同室避難)



※同室避難とは…

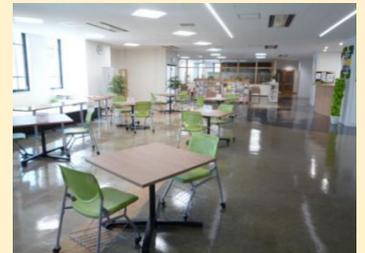
避難所施設内の指定された部屋で、飼い主とペットが同じスペースで避難することをいいます。

<ペットと同室避難ができる指定避難所>

犬山市民交流センター「フロイデ」

1階「協働プラザ」

(犬山市松本町四丁目2番地)



犬山市体育館(エナジーサポートアリーナ)

1階「多目的スタジオ」

(犬山市大字羽黒字竹ノ腰1番地2)



楽田ふれあいセンター

2階「情報工房」

(犬山市字外屋敷5番地1)



<ペット避難に関する避難所のルール>

- ・ペットは飼い主が責任を持って世話をすること
- ・施設内ではペットをケージに入れること
- ・ペットは指定された場所で飼育し、他のスペースに入れないこと
- ・避難生活に必要な物（エサ、薬、ケージ、首輪など）は飼い主が準備すること
- ・病気やアレルギーがある方も避難されていることに配慮し、避難者同士の「思いやり」の気持ちを欠かさないこと
- ・避難所運営本部（施設管理者、避難所担当職員など）の指示に従うこと

<日頃の準備>

★ ペットのしつけと健康管理

- ・ケージに入ることを嫌がらないよう、日頃から慣らしておく
- ・不必要に吠えない、他の動物を怖がらないよう慣らしておく
- ・ノミ、ダニなどの予防をしておく
- ・不妊去勢手術をしておく



★ 行方不明にならないための対策

- ・首輪と迷子札やマイクロチップを装着しておく

★ ペット用の避難用具や備蓄品の確保

- ・療法食、医薬品
- ・キャリーバッグ、ケージ、首輪、ペットフード、水
- ・トイレ用品、レジャーシート、バスタオル、新聞紙、ガムテープ



★ 情報収集と避難訓練

- ・居住地域のハザードマップにより危険箇所、避難場所を確認し、避難訓練を行う

【問合せ先】

犬山市 防災交通課（電話：0568-44-0346）